

〈ニュースリリース〉

〈全国の男女4,680人に調査〉

**野菜の栽培・収穫体験が「野菜好き」になるきっかけに
これからは育てて食べる「押し野菜」を見つける時代に。**

今までに一番栽培したことのある“押し野菜”、第1位に輝いたのは「トマト」
密かに人気を集めている“隠れ押し野菜”は「パプリカ」であることが明らかに。

カゴメ株式会社（代表取締役社長：山口聡 本社：愛知県名古屋市）は、野菜摂取の実態と野菜不足になる要因を調査分析する「カゴメ野菜調査隊（<https://www.kagome.co.jp/syokuiku/knowledge/research/teiten04/>）」による「野菜定点調査2021」を実施しました。毎年実施している定点調査と、今年独自に設けた設問で新たに見えてきた結果をご報告いたします。

本調査では1日に350g以上野菜を摂取している人の69%が「野菜好き」であり、この野菜好きの人が野菜を好きになったきっかけの一つに、子どもの頃の栽培・収穫体験があることがわかりました。野菜好きの人が最も栽培したことのある野菜を“押し野菜”と称し、今回、第1位に輝いたのは「トマト」、密かに人気を集めている野菜“隠れ押し野菜”は「パプリカ」であったこともわかりました。加えて、当社の栽培・収穫体験に関する取り組みについてもご紹介いたします。

〈調査結果の概要〉

■約7割の野菜好きが子どもの頃に野菜と接点を持っていたことが明らかに。

野菜好きの66.9%が子どもの頃に「野菜の植ええや水やり」、70.0%が「実った野菜の収穫」を経験していると回答。

■子どもの頃に野菜との身近な接点を持つことで、野菜が好きになる傾向に。

家庭菜園や親戚の畑の手伝いなど身近で日常的・長期的な野菜との接点を持つ人は、8割以上が野菜好きになる傾向が明らかに。

■家庭菜園のエントリーに最適な“押し野菜”は「トマト」という結果に

野菜好きの中で第1位は「トマト」でした。第2位「きゅうり」、第3位「なす」、第4位「ピーマン」という結果に。

■密かに人気を集めている“隠れ押し野菜”は「パプリカ」であることが明らかに。

「パプリカ」を栽培したことがあると答えた57.2%の人は普段から食べているという結果になり、他の野菜よりも栽培体験によって摂取量が増えているという結果に。

<調査結果について>

(調査概要)

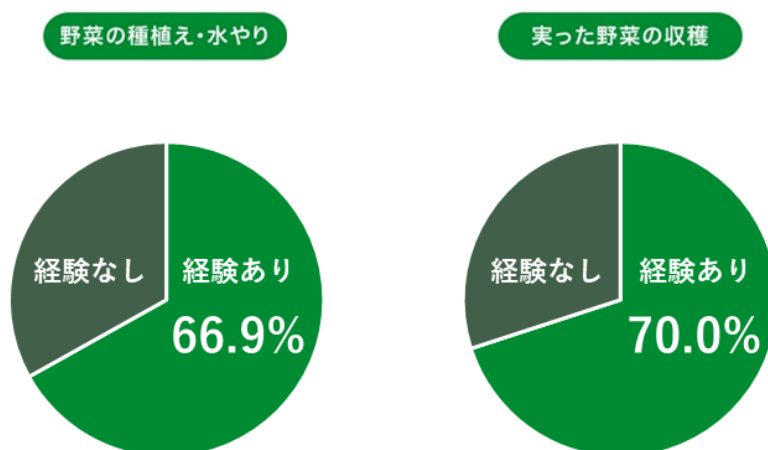
調査名：	野菜定点調査
調査時期：	2021年10月1日～2日
調査対象：	全国の男女4680人（15～69歳）
属性：	男性2340名 女性2340名 15～19歳 540名 20～29歳 900名 30～39歳 900名 40歳～49歳 900名 50～59歳 900名 60～69歳 540名
調査手法：	インターネットリサーチ
調査委託先：	株式会社H.M.マーケティングリサーチ
集計方法：	エリアおよび性年代別の人口動態に応じたWEB集計

<調査結果詳細>

■子どもの頃の栽培・収穫体験を通じて、約7割が野菜を好きになるということが明らかに。

野菜好きの66.9%が子どもの頃に「野菜の植えや水やり」、70.0%が「実った野菜の収穫」を経験していると回答。また、「経験あり」の人は「経験なし」の人と比べ、野菜好きのスコアが30ポイント以上高いことがわかりました。結果として、栽培・収穫体験が、野菜を好きになる要因として大きく影響すると考えております。

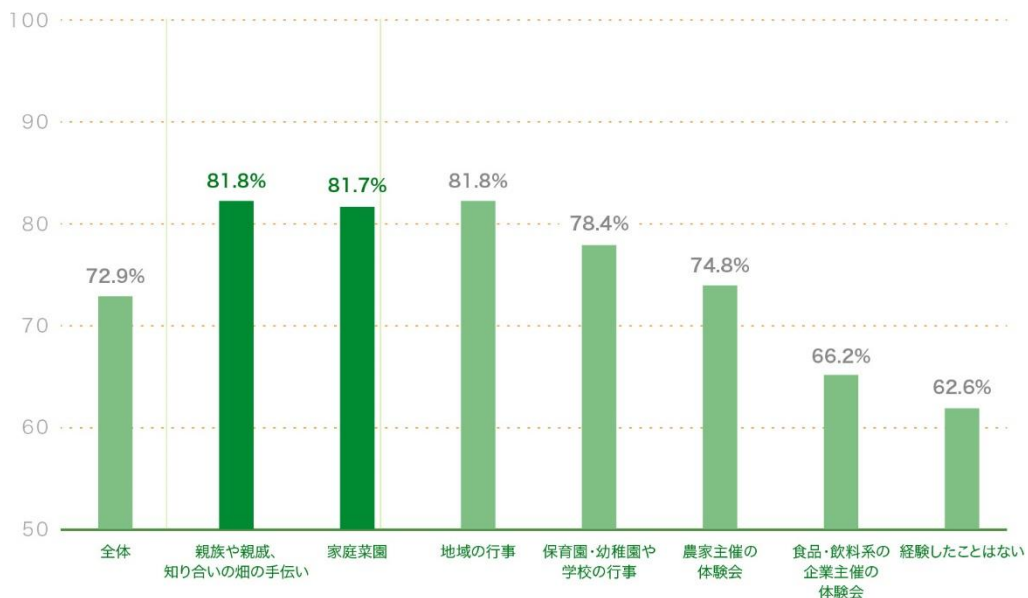
野菜好きの経験別割合



あなたはご自身が子どもの頃に野菜の栽培や収穫をされたご経験はありますか。

■子どもの頃に野菜との日常的で長期的な接点を持つことで、野菜が好きになる傾向に。昨今の健康意識の高まりから、社会的にも栽培・収穫体験を経験する機会が増えており、具体的には、「企業主催の体験会」「農家主催の体験会」「地域の行事」、より身近なところでは「家庭菜園」などが回答に。家庭菜園や親戚の畑の手伝いなど身近なところで日常的・長期的な野菜との接点を持っていた人は、8割以上が野菜好きになる人が多い傾向にあると言えます。「野菜好き」は「野菜嫌い」と比べ、野菜の平均摂取量も高いことから、子どもの頃に様々な栽培・収穫体験をすることで、野菜を好きになるきっかけとなり、大人になっても、習慣的に野菜を多く摂取できている要因になっていると言えます。

野菜好きの接点別割合

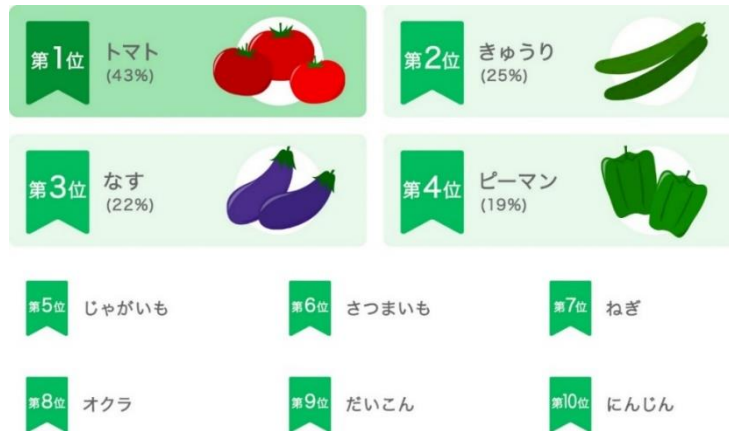


あなたは、ご自身が子どもの頃に野菜の栽培や収穫をされた経験はありますか。
それぞれの項目であてはまるものを全てお選びください。

■野菜好きが栽培・収穫した“押し野菜”TOP4はトマト・きゅうり・なす・ピーマン。特にトマトは家庭菜園のエントリーに最適な“押し野菜”。

栽培と収穫の項目にて、実際に野菜好きが栽培から収穫までしたことがある野菜の第1位は「トマト」野菜好き全体で栽培・収穫経験がある人の割合は43.4%でした。第2位「きゅうり」24.8%、第3位「なす」21.5%、第4位「ピーマン」18.6%と続きます。これらの野菜は、生長の変化（草丈が伸びる、花が咲く、実がなる、色が変わる等）がわかりやすく、栽培から収穫の過程の楽しさがより感じられるため、野菜好きになる効果的なきっかけになっていると考えられます。

野菜好きが栽培・収穫した“推し野菜”ランキング



また「トマト」は、「おいしくて積極的に食べたい野菜」ランキングでも上位を獲得しています。「トマト」は生長過程が顕著に実感しやすく、食べるときでも様々なレシピのバリエーションがあるため、特にミニトマトなどはご自宅で楽しむ家庭菜園のエントリー野菜として最適と考えています。



■密かに人気を集めている“隠れ推し野菜”は「パプリカ」であることが明らかに。

「パプリカ」を普段から食べている人は調査全体の26.6%で、他の野菜と比べたときのランキングは下から2番目と決して高くはありませんが、「パプリカ」を栽培したことがある人の57.2%は普段から食べており、全体との差が約30ポイントもあり、他の野菜と比べても差が目立つ結果となりました。つまり、「パプリカ」は栽培することによってさらにその魅力に気づくことができ、密かに人気を集めている“隠れ推し野菜”といえます。パプリカはトマト同様、生育過程が実感しやすく、料理のバリエーションも豊富であることから、家庭栽培において楽しめる要素が多くあります。

昨今のアイドルオーディション番組などでデビューまでの過程の中で、自分だけの“推し”を決めることがあるように、野菜においても生長過程から見ていく方が愛着が増して、より野菜好きになる傾向があるのではないかと考えております。ぜひ栽培を通して、自分だけの“推し野菜”を見つけてみてはいかがでしょうか。

普段食べている野菜		栽培経験で食べる頻度が増える野菜	
第1位	たまねぎ	第1位	ズッキーニ
第2位	ぎやべつ	第2位	パプリカ
第3位	にんじん	第3位	こまつな
⋮		第4位	にら
第29位	パプリカ	第5位	オクラ
		第6位	さといも
		第7位	しいたけ

あなたが普段の生活の中で、食べることがある野菜は何ですか。

■栽培・収穫体験に関するカゴメの取り組み

栽培・収穫体験に関する取り組みとして、園芸商品や食育支援活動、体験施設などをご紹介します。

・カゴメの家庭園芸シリーズ

URL : <https://www.kagome.co.jp/products/engei/>



農業からスタートして、種から土づくり、栽培、収穫、加工、販売まで自社で携わり 120 余年。今や、7500 種のトマト遺伝資源を保有し、日々新しい品種の開発を行っています。ご家庭でもトマト栽培を楽しんでほしい。そんな想いで発売した「カゴメトマト苗」と「カゴメの土」には、カゴメのこれまでのノウハウと情熱が詰まっています。また、ミニパプリカの苗も、お客様のご意見を参考に色や味の違いが楽しめるラインナップをご用意しています。

・りりこわくわくプログラム

URL : <https://www.kagome.co.jp/syokuiku/love/tomato-nae/>



1999年より毎春、全国の小学校や保育園などにカゴメのトマトジュース用トマト「凛々子（りりこ）」等の苗を無償で提供する、食育支援活動です。トマトを育てる・収穫する・料理するといった一連の体験を通じ、未来を担う子どもたちの「命への関心」と「感謝する心」が生まれ、「野菜好き」のきっかけとなることを願っています。

・カゴメ野菜生活ファーム富士見

URL : <https://www.kagome.co.jp/ysfarm/>



2019年4月にオープンした、「農業・工業・観光」が一体化した体験型「野菜のテーマパーク」です。八ヶ岳の雄大な自然を背景に、季節ごとの農作業体験や、旬の野菜の収穫体験をお楽しみいただけます。野菜と密に過ごす、かけがえのない体験を通して、カゴメならではの新しい「野菜時間」を提案していきます。

※2021年12月7日（火）～2022年3月22日（火）は冬季休館となります。

<報道関係者様お問い合わせ先>

カゴメ株式会社 経営企画室 広報グループ 北川、榎木

TEL:03-5623-8503